

令和3年11月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

トウキョウサンショウウオ

トウキョウサンショウウオは昭和6（1931）年に東京都西多摩郡多西村（現あきる野市）で発見された両生類で、群馬県を除く関東1都5県と福島県南東部に分布しています。トウキョウサンショウウオは、オオサンショウウオのような大きな体ではなく、全長10～20cm程度の小型のサンショウウオです（写真1）。成熟した個体は黄色味の強い褐色から、紫がかった暗褐色やほとんど黒色まで多様な色彩をしています。

普段は丘陵地の山林の地表や地中に生息していますが、繁殖期の2～4月ごろになると湿地や池、水路などのあまり流れがない水場に成体が集まって産卵します。一頭の雌はクロワッサンの形に似た卵囊（らんのお）を2つ、対にして水場の土手や水中の落ち枝に産み付けます（写真2）。卵囊とは十～百数十個の卵が入っている袋で、卵から孵化した幼生はある程度泳げるようになって卵囊から飛び出していきます。幼生はしばらく水中で過ごしたのち、四肢が生えて、7～10月には周辺の山林に上陸していきます。このように、トウキョウサンショウウオは水場と山林がセットになっている環境でしか生息できないことから、里山を代表する動物の一つとされています。



写真1 トウキョウサンショウウオ成体



写真2 トウキョウサンショウウオ卵囊

トウキョウサンショウウオは分布がよく調べられている種類で、東京都の産卵地については長年に渡り、継続的な一斉調査が行われています（トウキョウサンショウウオ研究会. 1999, 2014, 2021）。これらの調査から、青梅市に生息するトウキョウサンショウウオは、多摩川北岸の加治丘陵に生息するグループと南岸の草花丘陵に生息するグループの

二つに分かれていることが明らかになりました。ここでは多摩川北側の加治丘陵のグループの変遷についてみてみます。加治丘陵での一斉調査は平成 10（1998）年に第 1 回、平成 18（2006）～平成 20（2008）年に第 2 回、平成 30（2018）～令和元（2019）年に第 3 回の計 3 回が実施されています。加治丘陵では、第 1 回調査では 13 箇所の産卵地で 243 卵囊、第 2 回調査では 37 箇所で 620 卵囊、第 3 回調査は 10 箇所 46 卵囊を確認しました。第 1 回から第 2 回にかけて、産卵地箇所数・卵囊数ともに増加しているように見えますが、第 2 回では調査の人手や日数をかけたため、新しい産卵地の発見が多く、そのために増加したように見えると考えています。なお、第 1 回で卵囊を確認した 13 箇所のうち、第 2 回でも卵囊が確認できたのは 7 箇所のみだったことから、このころからすでに産卵地の消失が見られました。第 2 回と第 3 回を比較すると、産卵地箇所数は 27.0%（37 箇所→10 箇所）に、卵囊数は 7.4%（620 卵囊→46 卵囊）に大きく減少しました。第 2 回と第 3 回はほぼ同じ場所で調査をしたため、この減少は実際の個体群の減少を表すものと考えられます。

こうした減少の傾向は多摩川南部の草花丘陵に生息するグループでも同様で、草花丘陵全体の卵囊数は第 1 回調査と比べて第 2 回調査時には約 60%に、第 3 回調査時には約 12%まで減少しています。また、多摩地域全体でも産卵地の消失、卵囊数の減少が進行していることが明らかになりました。減少の原因は、乱獲、開発による生息地の消失や分断、水田の耕作放棄による湿地や水路の変質、アライグマなど外来哺乳類による捕食が考えられています。このため、トウキョウサンショウウオは絶滅の危険が増大している種である「絶滅危惧 II 類」とされています（環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室. 2020）。また、令和 2（2020）年には「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」による「特定第二種国内希少野生動植物種」に指定され、販売を目的とした捕獲が禁止されるようになりました。

<参考文献>

- 環境省自然環境局野生生物課. 2020. 環境省レッドリスト 2020. 環境省自然環境局野生生物課. <http://www.env.go.jp/press/107905.html> (2021/11 アクセス)
- 草野保・川上洋一（編著）. 1999. トウキョウサンショウウオは生き残れるか？ -東京都多摩地区における生息状況調査報告書-. トウキョウサンショウウオ研究会.
- 草野保・川上洋一・御手洗望（編著）. 2014. トウキョウサンショウウオ：この 10 年間の変遷 -東京都多摩地区における 2008 年度生息状況調査報告書-. トウキョウサンショウウオ研究会.
- 草野保・川上洋一・御手洗望（編著）. 2022（印刷中）. トウキョウサンショウウオ：長期調査で分かった個体群の衰退と絶滅 -東京都多摩地区における 2018 年度生息状況調査報告書-. トウキョウサンショウウオ研究会.

（文責 御手洗望）